

地域医療連携推進法人内での病床融通の実施について

資料 2 - 2

なにわメディカルネットワーク病床融通計画（令和8年6月実施予定）※病床融通後も診療科に変更なし

- ・現状の病床稼働率は98%（令和6年度病床機能報告）であり、今後のがん患者増加に伴う手術件数の増加への対応が難しくなる見込み。
- ・がん診療体制を維持するために必要な病床数として、19床を見込んでいる。

（必要な病床数の算出方法）

$800\text{例（2024年度の手術件数）} \times 8.5\text{日（平均在院日数）} / 365\text{日} = 18.6\text{床}$

大阪ブレストクリニック（福島区）
現状11床→融通後19床

乳腺外科、形成外科、婦人科、放射線治療科、病理診断科、麻酔科、リハビリテーション科

- ・医療提供体制の充実による入院機能の強化
- ・病状増悪時の緊急入院体制の構築が可能に
- ・福島区を中心とした大阪市西部の介護事業者等との連携窓口

入院及び外来の機能分担

- ・参加施設の専門性を活かしながら相互連携
- ・入院～在宅まで効果的かつ効率的な医療提供体制の構築
- ・患者が住み慣れた家庭や地域での療養や生活を選択可能に

さたクリニック（北区）
現状3床（非稼働）→融通後0床

婦人科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科、リハビリテーション科

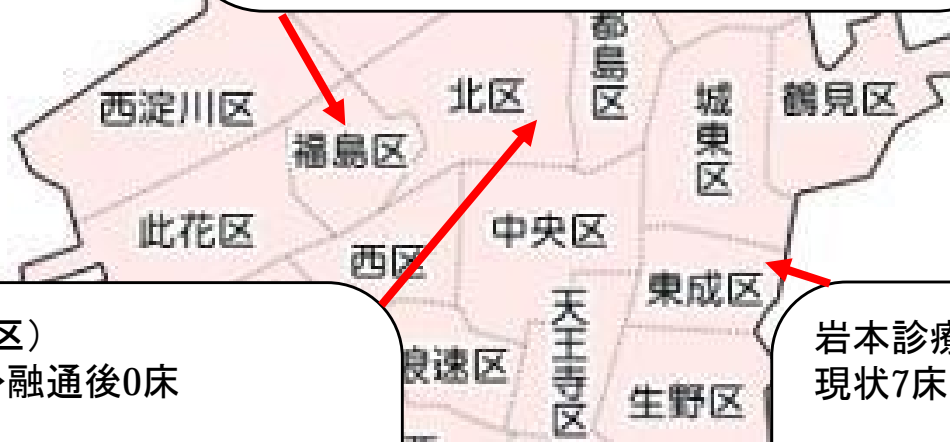
- ・患者の視点での「かかりつけ医機能」の強化
- ・北区を中心とした大阪市北部の介護事業者等との連携窓口

岩本診療所（東成区）
現状7床（非稼働）→融通後2床（稼働予定）

内科・外科

在宅医療支援や術後経過観察用のベッドとして必要
⇒ 体制確保に向け調整中

- ・患者の視点での「かかりつけ医機能」の強化
- ・東成区を中心とした大阪市東部の介護事業者等との連携窓口



なにわメディカルネットワークの病床融通の目的

- ・参加施設の専門性を活かすことで入院及び外来の機能分化及び連携を推進し、質の高い医療提供体制の確保を図り、がん患者が住み慣れた家庭や地域での療養や生活を選択できるよう、参加施設間での相互連携に積極的に取り組む。
- ・病床の集約を予定する福島区の「大阪ブレストクリニック」は、大阪市の北部において鉄道（ＪＲ東西線・環状線、大阪メトロ、阪神線）をはじめ交通の利便性が高く、北区や東成区からもアクセスが容易で、病状増悪時の緊急入院体制の速やかな構築が可能。
- ・北区、福島区、東成区における早期発見、早期治療のため、がん検診の受診率の向上を図るための広報と受診しやすい体制の構築を行い、予防医療の充実を図る。
- ・退院後の生活を支える外来医療、患者の視点に立った「かかりつけ医機能」を強化し、より早期から退院後の生活を見越した医療ニーズのアセスメントや調整・支援を行い、入院～在宅まで患者の状態に応じた円滑で切れ目のない効果的かつ効率的な医療提供体制を構築。
- ・就労者支援などの相談体制を構築し、退院後の生活を支える外来機能を強化することで、可能なかぎり住み慣れた地域で自分らしい暮らしが続けられるよう、それぞれの地域に包括的な支援・サービス提供体制を構築し「がん患者や家族の生活の質の維持」に貢献。
- ・地域の医療従事者向けに医療安全、感染対策、がん診療の勉強会を実施するなど、多職種連携による「地域の医療関係者の資質向上」に貢献。
- ・地域医療構想の実現を図り、地域包括ケアシステムの構築に資する役割を果たすよう努め、地域の住民が住み慣れた地域で自分らしい生活を継続できるよう、質の高い医療提供体制の確保を目指す。